



## 図書館総合展フォーラム レポート

### 「あのころの映像が地域を映し出す～映像をとおして時代を継承するために～」

(11月1日実施)

11月1日(木)パシフィコ横浜アネックスホールにて、図書館総合展フォーラムが開催された。今年は神奈川県図書館協会90周年ということで、記念式典の後の開催となった。

本研修では、地域に関するフィルムや写真資料の保存の重要性やその可能性をテーマとして取り上げ、基調講演、パネルディスカッションを含める形で実施した。

基調講演においては、フェリス女学院大学国際交流学部教授・春木良且氏にご登壇いただいた。今回デジタル化された「かながわ あの日あの頃」を上映した後、各地のニュース映画の映像を例に挙げながらお話しいただいた。このニュース映画について、メディア企画によるものと自治体によるものがあり、戦後は専門の映画館もあるほど一般化していたが、平成初期までのものは記録媒体がフィルムやVHS等アナログのため現物の劣化が進んでおり、これらの保存は危機的状況にあるといえる。公文書と違い行政刊行物は保存規定がないこともその一因である。昭和を正しく記憶している人が少なくなりつつある今、「戦後社会は誰が作ったのか」と同様に「どこに保存されているのか」も価値を持つ問いとなっている。今と昔では写真や記録に対する意識が異なっており市民の記録は軽視されがちだが、戦後社会の記録は公文書だけでなく市民の記録にもあり、政策ニュースはそれらをつないで人々の記憶を喚起することを可能とするものであるとのことである。ここから市民アーカイブスができないか、と締めくくられた。

パネルディスカッションにおいては、春木氏に引き続きコーディネーターとしてご登壇いただくとともに、パネリストとして公益財団法人はまぎん産業文化振興財団事務局長・田村正志氏、株式会社あわえ代表取締役/「ストーリーフォトストック GOEN」運営・吉田基晴氏、神奈川県立図書館司書・白石智彦氏にご登壇いただいた。吉田氏からは、移住者と地域文化について、まず、地方に魅力を感じるだけではなく地方の価値を創る人になってもらうことが重要とお話があった。その文化を継いでいく役割を担う図書館としてだが、白石氏からは、神奈川県立図書館のデジタルアーカイブの制作について苦労されたエピソードや著作

権の問題についてのお話があった。また、田村氏からは、取材を通じ、祭り等地域の文化を子どものうちから教えている熱心なところは、一度都市に移転した人々が戻ってきて、また参加することもあるとお話があった。人の流動性が高くなっていく現代において、アーカイブが地域づくりの一環になるのである。

16ミリフィルムなどアナログの記録媒体の劣化については近年課題認識されている事案であるが、解決が難しいのが現状と思われる。一方、そのような中でも、参加者から「民間・市民の地域資料としての写真映像が集約された場(公)が無いのだと気づきました。」「後世に現在を伝える大切さをよく理解いたしました。」等の声が寄せられ、地域資料を保存していくことの重要性について、改めて考える機会となったようである。公文書の保存だけではなく、市民や地域の記録をどう残していくのかということも、今後の課題となりそうだ。



(神奈川県図書館協会 研修委員会)

## 図書館総合展 第20回図書館総合展 ブース展示報告

(10月30日～11月1日実施)

今年も広報委員会では、10月30日～11月1日パシフィコ横浜で開催された「第20回図書館総合展」において、神奈川県図書館協会の展示ブースを開設しました。

展示内容は、昨年に引き続きパネルや協会刊行物、チラシ等の展示のほか、神図協90周年を記念しまして内容を刷新したものを新たに展示しました。

まず、加盟館の紹介映像をプロジェクターで流しました。加盟館の皆様厳選した画像を送って頂いた甲斐がありまして来場者の方々に大変好評で、「図書館の新旧外観や館内の様子を一举に見ることができ興味深い」「普段は行けない図書館もスライドがあることによって特色やイメージが掴める」「ブースが明るくなった」といった感想をいただきました。

また、今回新たに編集し直しました神奈川県図書館一覧をお配りしました。「図書館名・電話番号・住所等の最新情報を反映したものであるため利便性が高い」と、こちらもまた好評でした。「加盟館はいくつあるのか」「公共図書館・大学図書館以外にどこの館が参加しているのか」などの質問を受けた際にもこちらの資料をご案内したところ、「一覧になっており分かりやすい」とお褒めの言葉をいただきました。

そして、アンケートに答えていただいた方には、ノベルティとしてオリジナルトートバックを配布しました。こちらのデザインは、神奈川県図書館協会が90周年を記念して作ったことが分かるよう、神奈川県図書館協会のマークであるKLA (Kanagawa Library Associationの略字) 及び、90TH ANNIVERSARY SINCE 1928 という文字を神奈川県の上の形に印字したものにしました。やはりノベルティがあると目を引くのか、ブース来訪者数は3日間合計で547名と前年度を大きく上回り、その内360名の方よりアンケートにご協力いただきました。

アンケート結果から、図書館関係者のみならず、多くの一般の方が訪れていることが分かりました。一般の方の図書館に対する興味の強さが感じられます。また、多くの方は県内及び近隣都道府県からお越しになっているようでしたが、中には北海道や関西、沖縄からお越しになる方もいらっしゃいましたことに驚きました。

県内だけでなく、全国さまざまところから来ている方や、神奈川県図書館協会展示を知らない方にもご覧いただけたようです。

今回学んだ経験を後任の委員の方々に引き継ぎ、次回もたくさんの方に興味を持っていただける展示となるよう努めていきたいと思えます。



(平塚市中央図書館 中村 春菜)

## 伊勢原市立図書館『図書館サポーター』活動記

当館で活動している「図書館サポーター」は、図書館が実施する事業のサポートをする方々です。団体ではなく、個人が図書館に登録をする形で活動していますが、実際にはメンバー同士の息もぴったりで、次々発注される図書館からの注文も、サクサクとこなしてくれます。館内、イベント会場の飾りや事業の賞品づくりから、ひたすらシールを貼ったり線を引いたりするだけの作業なども本当に手際よく行ってくださいます。そして、特筆すべきは、当館で平成28年度に幼児から中・高校生への読書普及を目的とし設置した『こみち文庫』です。横に立ち並ぶ10台の書架の前を散歩道に見立て、書架に草花や木の枝を描いて、子どもたちの目にも楽しい場所にしてくれました。

そんな図書館サポーターの活動で忘れてはいけないのは、当館の正面玄関に入ってすぐにある『特集架コーナー』です。1年に4回、季節に合わせ、図書館実施のイベントに合わせて、新しい特集架を設置してくれます。設置する本は、テーマから全てサポーターさんが決め、読んで選び、さらにはポップまで作成してくれます。本と同じ数だけポップがあるので、設置されている本が貸し出されたら、次のポップと本をすぐに並べることができます。

同コーナーでは、毎年3月には自殺対策強化月間に合わせた特集や、9月には図書館教養講座に合わせた特集も実施し、趣向を凝らした飾りと共にいつも大人気です。

今年の12月からは、「たまご」をテーマにした特集をしています。卵料理から、手芸、工作、物語等、いろんな角度での「たまご」の本が勢ぞろいです。手芸の本からは、掲載作品が隣に実物になって一緒に飾られていたり。当館にお越しの際には、ぜひお立ち寄りいただきたいコーナーの一つです！

(伊勢原市立図書館 塩田 麻美)

